

昭和四十二年九月録音

録音そのままを書きしりました。

句読点はすべて息継ぎの箇所であります。

聞き手の「近所の人」なる人物は、深見さんのお客さんで  
氏名は解りません。

【一】

深見氏、戦争中は忘れられつつたわね。全然、しかしまあなんですわね、戦争が終わって、そしてあのー、世の中が落着いてくるにしたごうてね、そのまあー、娯楽というのを求めたんよね。結局、あつちも米が穫れた、こつちも穫れたとか、いうことになってくればそのー、やはり、なんかやってみないと、いうことになれば、その当時はまだ、昭和二十二、三か四、五年にかけてはね、義太夫語りもまだまだおつたし、それから三味線弾もおつたし、人形遣いも相当な遣い手が県下にもまだまだ二十や三十おつたからね。それでまあー、私が人形座を持っていると云うことを知ってね、それでまあー来てくれんかと。また私が何故そういうふうになったかと、私はこの人形ということをその営利の目的にしとらなんだからね。ただ自分も好きで義太夫も

語れるし、そのまあー自分も下手なりに人形も操るし・・・好きでおれんのよね。そこでまあーなんじゃ、家業の傍らね、そのまあーやってみて、そしてまあー芝居をやるんですけどね。まあ兎に角やってみればその今までほの娯楽やいうものに縁遠かったほの日本人がじゃね、郷土のかたがその昔ながらの人形芝居ということで非常にはやったのよねこれが、それと同時に、ほのー高等学校とか中学校とか小学校とかの、まあーその当時はもう教室もぼろやしね、ほのまあー教材もなく、そういうものをほのなにやわね、ええ整備するのについて金があると、まあ資金じゃわね、資金の調達に何かやりたいと、いうようなことで、まあ加茂名中学とか、土成の女学校とか鴨島の女学校とか、いろいろなほうぼうを小学校、中学校、高等学校と、いうふうにはほのー学校関係のほのー興行、というたらまあなんですけどまあ芝居をね、

こりやまあ学生が前売券売るんですけど、そしてまあなんじゃわねー、まあ深見さんであれば、あのー実費でやってくれるだろうと、いうところでまああの私が終戦後にこの県下を股にかけて人形芝居をまあトップというたらなんですけど、まあ一番早かった訳よね。復興させたのが、その時分に、結局、えーいろいろな面白い話があるんですけどね。そのえー松茂の広島だったかね、やりりよったんですよ、ほた近江源氏をやるのにほのーミミヨウという人形が、その太刀を使うとかね、その抜太刀というて、ほの人形にはこう伊達ざしと抜ける太刀と両方ある訳よ、ほの抜太刀を真剣使うたんよ、ほいら差止くろうてね、その当時からいろいろやかましくなって、結局にほのまあ浄るりというのには非常にほの封建的な文句が仰山あると、それではいかんと、いうもんで、ほの進駐軍の許可が無かったら、認可がなかったら芝居

ささんということにまでなつたんですよ、そえでこの認可を私かで、いつ  
だつたかはつきりせんのですが忘れたんですが、これ歌舞伎座というんがあつ  
てね徳島に、高瀬というんがしよつたんと思ひますわ、その当時はこれ複写  
して、三部作つてね、ほいでむこうへ一冊送つて、ほで自分が一冊持つとん  
ですからね、これを許可をもらいにいったことがあるんですよ、その  
当時はもうこれ表紙にする紙もない様な哀れな時代でね、これも私これ記念  
にとつておいたんですがね、このぼろの表紙をね、そでまー一時検閲受けてね、  
このまあー文句をずうと読んでいて、ほてまあ私もなるべくほの差障りのな  
いようなこれ世話物のようなんぼつかりとつたんですけどね、まあ「サガヤ」  
とか「阿波・鳴門」とか「ササゴイ日記」とかいうふうに、まあ別にほのか  
たい文句もないしね、ただこれいかなという所はこれ抜いたんですけどね、

そいでやつと許可もろうて、それからまあ県下をほの学校の芝居とか村の芝居とかいうのやつて、そで案外流行ったんですよ、えーと、何年私が昭和三十一年三月の十八日に大阪産経会館でやつとんですよ、阿波源之丞発表会を、それが恐らく、もうたてあげになつたようなもんです私はね、もうそれから帰つて役者がなくなると同時に、三味線弾きもなくなると、現在もう阿波にはないんですよ、佐古の大安寺に坂本豊三郎と云うのが一人おると、それと大谷に上地國五郎というのが一人おる、これまあ私の所に人形遣いにきよつた役者ですけどね、もう役者というてはもう二人ぐらいでしょうね今、現在名のとうた人はね、いい人は皆なくなるし、もう私が産経ホールへ行つた時分のえー「ダンイチ」師匠もなくなるし、サキハル師匠もなくなるし、もう現在なんじゃわね、義太夫やるかたはまだまだぼつぼつ残っていますけどね、

その三味線がない為に、そのやれないのよね、そえで私はもうなんじゃ、恐らく相当県とかね、國とかが力いれてくれんかぎりこの人形芝居というものは復興できんと思う。現在のような状態では、そえでまあ私は私なりにもう今の心境は阿波の古典芸術と、まあ昔私達先祖が楽しみにした娯楽じゃね、これを誰かが維持せな、誰かが保存せんことには、この阿波の人形は消滅すると、私はこう考えたんよ、という事態はほの阿波の人形というのは、今芸術価値があつてね、非常にほの県外の御客様に好かれるねん、そえでケース入にして出ていくとかね、いろいろな方法で相当高価な価格で売買せられよるわけよね、そでもう殆ど人形座も、私が終戦後やりよつた時分には、なんですわ、昼間（三好郡昼間町）にも源之丞があつたんですけどね、えーなんとかいう、杉本さんという人が持つとんですよ、これもなくなつたし、

それから貞光にもあつたんがなくなつたし、それから撫養の鳴門源之丞です  
がこれもなくなつたし、もうそういうふうに殆んどなくなんりよんよね、えー  
拜宮座もなくなつたでしょ、それから福井座は三木与吉郎さんがこうたで  
しょ、そういうふうに、兎に角阿波の座が、あー兎に角分散しよんよね、こ  
れではもう阿波に人形座がなくなると、こう思つたものですから私が、これ  
はもう興行価値はないにしても、まあー阿波の郷土芸術としてやね、こうい  
うものがあつたんだと、いうことを残しとけばやね、まあーまた大勢の人に  
は理解ある人があつて、阿波のデコつてどういふもんかなと、見せてくれと  
いうて来た場合に見てもらえるしね、そやからまあー昔の名工の打つた、えー  
人形の顔とか、いろいろ珍しいのがあります。それはね手にしてもいろいろ  
種類があるしね、つかみ手とか、かし手とか、かみ手とかね、それからおや

まの手でも、こと手、三味線手ね、琵琶手というふうにもいろいろ手があるんですよ。そんでまあーそういうふうなのを解とるかたが案外今になくなるんじゃないかと思うてね。私はこの人形芝居に関しては相当まあーほうぼうで知識をとりいれてね、えーできるだけの事は自分が書きとめておこうと、こういうふうなつもりで現在はそういうふうなつもりでもっています。もう今更これで興行やってみようとか、人形芝居をやろうとか、いうようなことはございませぬ今はね私の考えは。

●深見さんは何才頃から興味をもったんですか。

深見氏、むむ、私は十三才頃から人形に興味を持ったね、十三才というよ  
りかね、私はえー小さい時、三好郡の賀茂でおったんです。小学校の一年生  
に入学する為にこちらへ帰ってきてね。それまで何かというと、両親が向こ  
うでちよつと事業しよつたもんでね。賀茂という所は、ほのー毎年地神芝居  
ちゆうのをやるんでね、山の小屋でね、そえで私がもう物心付くとほのーな  
んじゃね、親父が義太夫やる関係でその芝居を觀に行つた訳よね。そえでそ  
の時分からこの人形に何かひかれるもんがあつたんでしよう。そえで人形が  
私が十一、二かな、くらいの時分に一番最初の座を池田の笹山金太夫とい  
うのを買ったように思いますわ、そいたらもう兎に角人形が好きなんだから

して、えーいろいろほのなんじゃね、えーわからんいきにも髪も結つてみたり、衣装も付けてみたり、手を入れ遣つてみたら面白いと、いうふうにならに自然に自然の中に私ほのー人形というものに馴染んだ訳よね。そやからして私が義太夫もやるし、三味線もやるし、それからまー人形も遣うというようになつたのはまあ終戦後じゃね。終戦前からやりよつたけどね、終戦で一時中断したわね、そで終戦後ほのまあーなんじゃわねえー義太夫も本格的にもやるし、それからまあー人形の方もまあいろいろ舞台でも遣つてみた事もあるしね、そでまあーなんですわほんなんいよるうちに……。

●巡業はどの辺まで行っていたんですか。

深見氏、巡業はね私は県外というてもなんですな主に西讃岐から東伊予松山くらいまではよく行きました。それからまあ讃岐は、高德線でありましたら津田、引田、あんな方、それからまあ県下は南地はあんまりはいつとらんけれどもこっちは殆んどはいつています。というのはあんたもう学校の芝居というたは私が一手販売みたいになつとつた、というのはごく実費で行くでしょ、私がそんでまあ金儲はできんのじゃけど感謝状の数だけは仰山もろとんですよ、そんなもろうて喜こんどんよ。しかしまあ私も好きだったからねこれが、兎に角最初もうえーなんじゃはね、芝居に行くとなつたら、ほの行つて舞台で遣うのがほのー楽しみでね、えーもうほりや随分ほのー凝っ

たものですほれは、ほりやもういろいろ舞台でもね、千畳敷に至るまで作つてね、ほりやもう盛大にやったんですよ。終戦後でもね。まあー財政が苦しなつたこともあつたし、二、三回手離そうと思つた事もあつたですよ。しかしまあーまずまず人形売るよりか山からでも売つていけと思つて（笑）。まあ現在だったらよう持つとつたものだと、これもうあの当時離しとつたらもう、後これ手に入らんのにね。まあ今日までよくがんばつてね。現在人形の頭九十八個持ってます。うち天狗久のもの五十ぐらいあります。それからまあ人形頭は伊予の面子作ね、これも持ってますし、嘉永三年かな吉田文吾という人の打つた珍しい頭も持ってますわ。この人が六十一才の作でね。でー今だにほのー私は人形頭を寄よんですよ。えー七月一日も今治まで行って四つ買ってきました。面子の作を三個と、天狗久のを一個とね。

●今治の人形というのは。

深見氏、えー今治文楽というのはね、結局私みたいな筋なんですわな、まあー寄せたもんよね、ほじゃけんど座としてはまあー半端座でね、纏った芝居はできんはね、まあー一定の芝居でいうてもこうたらんもんが仰山あつてね、座としては纏つとらんけどね、案外ほのー昔の古い面白いもんがあつてね、ほんで四個程七月に買って来ましたがな、しかもう阿波もなんですよ、もう結局青年層がもう全然関心がないからね、人形芝居という事について、これさむしいもんですこれね、もう義太夫やいう語れる人はないでしょうな、もうあんた夏の夏季大会観に行つても最初はなんでしょ、十五日位でいつきよつたでしよ、夏季大会が、しかしそれが十日になり一週間になり、もう恐

らく来年くらいに夏季大会はできるかできんかわからんでしょ。

●そういつてますね。

深見氏、えーそういう状態になってます、というのは結局もうなんじゃね愛好者が高齢なかたが多いでしょう、毎年減っていく傾向にあるわね、そで若い人にほのー趣味がないもんやけに、若い人のほの愛好者ができんと、ほでまあかぎられた物がなくなつていくだけ減つていく訳よね、毎年、それとまあ私なんかに言わしたら、私も好きなんだからして観に行けばいいようなもんですけど観に行つてもねえ、ほの昔の芝居を知つとうでしょ、ほんで現

在の観に行っても得心せんのよね、というのはまあ昔だったら一日に七切やる中に二人や三人は聞き応えのする太夫もおったわね、ほら玄人なかすよ  
うな素人太夫が相当おりましたわな、現在ほら無理もないんですわ、いい師  
匠もなしね、もうただその夏いつぺんやるのに、なんじゃわね、俄に御浚いやつ  
てでてくるんじゃけんね、昔のようにあんた一年中お師匠膝元へ引き付けて  
稽古すというような人はもう現在ないのやからして、師匠もなし、えーする  
んだから無理はないけどね、もうすこし人形役者なんかも、もうすこし工夫  
がほしいと思うね。私なんか観たらつまらんとと思うね、芝居がテレビにたま  
にやっても、あーこんなことやんりよつたらこらー阿波の芸術も価値がない  
など、いうように思うわね、やっぱりなにもかも一生懸命やらないかと思  
うけどね、もう衰微したら衰微したなりにね、しかしそれが、現在はもうい

けいけいというようなことやね、芝居やってても、幕開いたら芝居が閉まるまでどうにかつなげたらええと、いうような芝居になってきたらいよいよ昔の芝居しつとるもんはつまらんわね、ほで県やでもね私やもうあの城西高校あたりでも学校におるうちはやるんよね、クラブで、ほでもう卒業したら何かの就職につくでしようが、ほたもう忘れるんよね、それをほでたまに敬老会とか、いや何かというたらそらーというて引っぱり出して、それはいいもんはできないよね、事実、やはりまあ阿波人形浄るり振興会なんかいう名目であるけどね、ほのー振興会なら振興会のようにやっぱりまあー県にも働きかけてね、そしてまあなんじゃわね、あと継をこしらえるならこしらえるようにね、まあー人形の稽古する者には何か特典を与えて、というふうに県が骨折らないかんわね、ただ好きなのはやってみるかいなぐらいではそりゃ

とてももうあきません、私のようなもうあのー人形が好きでおれんと、いうような者でなければね、私やいろいろ義太夫いえいうても丸本なんかタカシラ付きでね、ほてこう最初から終いまで読んでみるわね、ほらいろいろいい言葉があるわね、なかなか、そやからしてもー結局はなんでないんですか、阿波の人形芝居というのは、もう恐らくこれでおしまいでないんですか、えーそれは残念なことに。

●深見さんは座元もやったし、義太夫も役者もやったんですか。

深見氏、ええ兎に角ね、いうのがそのー人形座というものはね、太夫・三味線・役者とこんでまああのたてる訳なんですけどね、その場合に、地元ほ

のまあ一芝居する土地に太夫がある場合は、役者だけ行ったらいい訳よ、人形座とね、しかし向こうにほの一太夫とか三味線とかない場合は座のほうから連れていかんと、この元締めを座元というんです。ほて芝居を受ける方の頭取を請元というね、ほた座元が芝居を編成するが、昔なれば、あ一役者が仰山ある場合は十八人も二十人も役者を連れていた訳よね、ほれに太夫から三味線の多人数でいた訳よね、もう経費を安くあげないかんとという頭があるでしょう、第一に、そで役者をしまつしないかんと、そでまあ一役者が精一杯の十三人ぐらいでいくんよね、その場合伊予なんかへ巡業する場合は、私やだつたら三人前ぐらい働くんよね、太夫もやる、何もやる、何もやると、こういうねん、ほた一人で三人。ほで二人分しまつできるわけよ、太夫、兎に角自分が語つといて、そいで人形遣つて、というふうにかうやる訳よね、

そうせんと結局なんじゃね、そこで自分が太夫いうたら、役者自分の分だけ余分に雇わないかんでえ、そこでこれではいかんと座元というものは何もかもできないかんと、思うたからね、私義太夫もやったしね、人形役者もやった、ほや私はおやまの立役ともどつちでもいけます、だからしてまあ一大体元々から好きだったからできたものだね、こりゃ好きでなかつたらできませんよ、えーむずかしいし、なかなかあんた浄るり一段あげようと思うたらね、ほらななぼ少のうたつて三ヶ月ぐらいの月日はかかるわね、ごく簡単なものやるのにしてもね。

●失礼ですけど今何才でしょうか。

深見氏、四年生れやけんね、三十八才ですか、大体もう現在の心境としては私もうこの郷土の芸術品を、お金でもできればね、郷土館というようなものでも建てて、そして、義太夫の太線の三味線から、漆塗りの見台から、前のミスから、うしろ幕から、あー人形は云うに及ばず千畳敷の舞台まで展示してね、そでとまあこれから残しとけばね、また思い出した時分に皆見てくれるかなと、思うくらい的事でね、今はもう芝居してみようという欲望もなしね、思うたとこでだめだから、それは、えーそやからしてあんた、もう南の方に人形芝居が出る便も聞こえてくるけどね、観に行ったとこでそれはもうほん、ただもう人形舞台に出とうというだけでね、技術面においても

かんしねそれは、恐らくなんでないんですか、今人形座を持つという者は、よつぽど変り者でないんですか、現在四つ五つ残つとう中でもえー、まともな人間のする事ではないですわ（笑）。

ほらむずかしかつたんですよ、兎に角どの外題みても封建的ですよ、菅原伝授にしたって、あのセンダイにしたって自分の子供を殺して、お主のミマイたててこんなことがあんな現在考えられんはね、まあなんとしてもさむしいことです。

●徳島県以外の人の関心の度合いは。

深見氏、兎に角ね、その関心というのは、あれ神戸の甲南大学ですか、あすこの学生さんが、ほれ二十人位おいでたかなもう二、三年なるから暑い時分においでてな、私もこんな商売しようから、丁度忙しい時分だつてね、そいでまあ人形一つだけ仕立てて、まあお借ししたんじやけど、まあいろいろ皆替る替る操つて楽しんでいましたけどね、まあそのかたなんかは、やはり歌舞伎とか文楽とか研究しとるからね、あー真から好きだなと、思つたけどやはりそれは、飽く迄も趣味としてね、ですわな、えー大学生ですからね、まあそれを学校があつたら、まあ人形遣いになつてみようと思ふんでなしね、義太夫語りになろうと思ふんでなしね、まあそんなまあ全然別なわね、飽

く迄も趣味やわね、まあ趣味くらいでありましたら結局なんじゃわね、まあー  
興味本位とちゆうことやね、観に来てもね、まあ今はないんでないんですか、  
阿波の土産品として案外こうプラスチックなんかの人形がね、まあ県外客に  
すかれとんでないんですか、まあ人形座が県外出て行くという傾向もあるけ  
どね、これは恐らく私の考えですけどなー、ほの分散してあっち一つ、こっ  
ち一つというふうに、なんですかブローカが売つとんではないんですか、ほ  
んで人形座が売買できてもそれを纏て持って保存してくれるやいうんではな  
いと思うじゃけどね、だからしてもう県外の人は興味がやつぱり薄いではな  
いですか、というのはいつかお盆にかかった時分があるわね、徳島の夏季大  
会が、その時分にやはり具合悪かったもんね、入り具合がね、あんた興味が  
あるんであれば、あの何十万からの人が県外からおいでとんじゃからして、

ほんで会場もそんだけ入りが良いなければいかん訳で、そでやつぱり会場見ましてみれば、地元のお年寄連中ばかりであると、ということは結局まあ県外の人は人形芝居といえは興味が無いではないですか。

昔は義太夫の師匠を一ヶ月から二ヶ月ぐらいおいたもんですよ、毎日、そして昼となく夜となく一日二回ぐらいはね、稽古したもんですよ、現在もうそんな事がないわね、えーほら鴨島なんかにも相当な語り手があったからね、昔は、だから私や子供心に師匠が来たらね、ほの連中かたの家へね師匠が来てますよと、よく言っていたもんですよ、そしたらね、流石は皆好者やけんね、ぼつぼつ仕事しまつて夕食食べたら出掛けてくるんよ、そいでまあいろいろまあ自分の好きなやつをやるんですけどね、そんな子供心に横で聞いてて、まあ暗記してもうた訳よね、そこでこんど師匠が昼ぼかんと退屈そうにしとう

けん、お師ひとつやってみようかちゅう調子で、やったらそのままいけたという、まあーというような事で義太夫畑に馴染んだということやね、それが自然と人形から離れんようになってね、そこで私はもう在所の人に笑われよんよ、人形というたらどこまでも買にはいるんよ、そやけん恐らく人形頭はえー百でも二百でもあれば寄てみようと、こういうふうに思ってます私はね。

●今人形頭は高いでしょ。

深見氏、そうやね、大体天狗久のもんで十二万円位ですか、一個の頭だけがね、それが正味でしような、それまあー二十万、三十万という人があるけ

どね、徳島クラブなんかには、いいもんなれば百万円と書いたあつたけどね、そらまあ考えられるんですよ、衣装は金かければなんぼでもかかるしね、そらまあ観賞用としては、こういうふうには、ほの天狗久の頭だけケースに入れた、まあ十万、十二、三万というね、ほらいいもんができますよ。ほらもう兎に角人形会館だけは建ててみたいと思うてます、ほで現在持とるもん全部展示してね、それが徳島県の理解でも有ればね、まあ相当郷土芸術を保存してみようと思うんであれば、人形会館ぐらい建ててやると、いうてくれてもよさそうなもんじゃけどね（笑）。けどまあ兎に角貧乏県でとてもそこまでね、まわらんのでしょうけどね（笑）、そうなたら私やもう自分のこの現在寄てるもの全部提供してでもね、展示しますけどね、一番心配なのは火災を心配してます、もう火災の時分にはどうしたらええのかなと思て……。

【二】

深見氏、終戦後であったけどね、箱廻しが撮りたいというんで頼んでこられて県庁から、ほで私が池田の笹山っていうだったかな交渉してね、ほで木頭の方まであんた出張して、ほであの木頭の山並を箱かたりでね、ほでこう行って、ほでえーつづいてやって、ほで新町へ帰って町でやってね、ほんなん撮とんですよ。

●今そういう箱廻しは少なくなっただでしょう。

深見氏、その時分は弱ったんよ、映画に出てくれというたらね、ほの箱廻

しちゅうんを嫌うてね、ほの映画に残るんだったらいかんとういうです、もうえーじゃないかと、世の中変つとんじゃからして、で現在でもなんですよ、三番叟なんか、或る家へ行つたらね、私なんかいいもんだつたら買うんよ、天狗久のもんだつたら、ほの時分でもこう行つたらね、今子供がおるから、子供を外へ出すから暫く待つてくれちゅうて、ほで子供を出しといてでなかつたら見せてくれないですよ、というのはそれだけ卑下しとんじゃね、そういうたら、いいじゃないですか、私言つてね、私なんかあんたこの人形まだまだ買い集める位ですから、先祖が三番叟を廻して行つたから、箱廻しだったからと、そな卑下する事ないちゅうていうんじゃけどね、ほの非常にそれをこう嫌うんですね、現在でも箱廻しなんか撮りたいと思うてもなかなか撮れんのよ、ん、納得してくれんのよね撮らしてくれちゅうと。

私自身考えてみてもね、私がまあいろいろな人と接しられるのは、人形と云う趣味があるからですよこれね、これなかったら普通の米屋ですわな、普通の農家の人と変らんわね、しかし人形持っているが為に、あらゆる人と接して、ほら外人とも接しとるし、ほら相当な知名とも接してます、まあ結局風が変とつてもいいちゆうことよね、問題は、卑下する事ないと思うんですけどね、私やこれもうほんまいうたらどなんすんだ、私や人形座持つとうし、人形まだまだこれから買い集めよるもんね、いやほらもうあんたは趣味でやるんだからして、そんなに思わんかしらけんども、これを今まで、これで食べてきたということになつてきたら相当考える。というふうにいいますけどね。そらまあなんじゃわね、そない自分を惨にせんなんことないと、まあ三好郡の方へ入ればね、そのやはり三番叟とか一家カタギとかいうてね、そう

いう眼でみるんでしょ、ほでやはり人形役者にせよ、まあデコ廻しちゅうふうだね、人形役者というたら綺麗なけどね、デコ廻しといわれたうなんかほのねー（笑）。

●そう云う人いたですよ。

深見氏、ほで私なんか友達に云われた、「彼奴なんでデコ廻しの真似したりするんだろうか恰好悪い」とこう云われたことあるけどね、私は自分の趣味でやるんじゃないからして、別に格好悪いともなんとも思わんと、もう多分にそういうところあるわね、ほじゃからして私やもうそういう時分は人形役者とか、

人形遣いとか云うふうに呼んだけどねデコ廻しとは呼ばなんだ私はね、まあデコ廻しと云うたらそこになんかね。

●今は違うでしょう。(近所の人)

深見氏、今違うけどね、やつぱりね昔乍らのね、その歌舞伎役者とか、ほの人形役者と云うとね、やつぱりこう見下げてかかる人がおるんよね、そこでほのまず嫌うた訳よ、河原者とかね、いろいろまあそらー。

●人形と云うのはなんですか、阿波郡とか板野郡とか、あっちもやつぱり盛んだったんですか。(近所の人)

深見氏、いや人形には、二つも三つもケースがあるんよ、人形役者には結局村でほの村の行事に若い衆連中が浄るりも語ったり、人形も遣うたりして娯楽にやったという人と、これを本業に舞台で遣うて、ほの巡業やったと云う人と、おいおいそういうほのー正式な役者さんがほのーなくなつて、今度箱廻しのようなをやんりよつたような者を寄せてきたというのと、もう三通りも、いろいろある訳よね、三番叟廻してほの正月行きよつた人でも、しまいには人形役者のような事したからね。

●それじゃ徳島県じゃ県南あたりが一番盛んだった訳ですか。(近所の人)

深見氏、そうじゃ徳島県ではね、県南の方は比較的ほのなが多かったのよ、ほのー村のね、村有の人形芝居、娯楽の方がね、祭とか、まああのー、どこそこに誰その厄とかね、そんな時分にほの皆寄て遣う、そういう楽しみという場であった、この西へ行きましたら、今いう箱廻しとか、三番叟とか、いうものが多かった、しかし人形座というのは六十五座あった訳よね、大体的、これは天狗久の注文帳による数ですよ、初代のね、初代の天狗久の所へ注文してくる先はどこそこの座じゃと云うんで、注文帳の調べで六十何座というのよね、現在はもう私の知るところだったら、えー西からきたら、足代の座があるわね、三好郡の足代に一つ、ほだここで、鴨島で私阿波源之丞でしょ、

それに朝日源之丞でしよ、それから岡花座、寄井座、久國座、山口座、まだまだかれこれ十ぐらいあるんでないんですか、えー昼間の座は今憲法記念館で眠つとるわね、一つ、そしたらね、入田に座があつたんよ、入田座というて、やかましかつたんけど、この入田座はあの今現在なにい入つてますわ、鳴門の郷土館の中へ入つとんのがあれが入田座じゃ、まあ座と云うたらまあそれぐらいじゃね、しかしまあー小さなものがあるですよ、城西とか、内野とか、こんなの私や座のうちにいらんと思うのよ、座つというたら、まあー可成なもんが芝居ができんとね、やつぱり大水引から後の舞台から、暖簾からね、櫓太鼓、拍子木、太鼓こんなもんがひと揃え揃ろうて座ということになるからね、それが揃ろうとるんであれば、まあもう県下に、休んどる座も寄して十ぐらいでないんですか、そやからして現在まあーぼつぼつでもできよん

のが、久國座、それとまあ岡花座、まあ山口座は私観た事ないけど、まあ山口座ぐらいやんりよんでないですか。ちよつと単独では無理とのこと、やる時は岡花座から役者をかりてね。

大谷座なんかも休んでしもとるわな、だからまあー昔の事思うたらさむしいもんじゃな。

●ほた、やつぱり吉野川北岸と南岸だったら南岸の方が盛んだったんですか。  
(近所の人)

深見氏、むむ、まあそうじゃね、と云うのは、やはり、北岸もしかしなん

ですよ、御所とか、土成とかね、こんなところ盛んだったですよ、座もあつたしね、そりやもう県下一般にこの人形浄るりと云うのは盛んだったよね、ほら向こう渡つたつてあんた、大谷には、四國源之丞と云うええ座があつたしね、住吉の劇場へ置いといて焼いたけどね、そえからもう戦時前にはあんた、徳島の温泉劇場で一丸六之丞ね、花福座で上村源之丞ね、これなんかあんた両方が一ヶ月ぐらいうつとんじゃけんね、あんな近いところで、それでも入りがあつたんじゃけんね。

私や現在覚えてんのが、昭和二十五年ぐらいだつたかな、伊予のえー「ヒミ」と云うところで芝居をした時分に、隣でも芝居できよんですよ、ほた土地のおんなし町で、おんなし人形芝居が二つかかるとる訳よね、そしたらなんですよ、いい方へ客が入るんじゃけんね、面白いですよそれは、そうなつたらあんた、

技術もようになかったらいかんし、人形座もようになかったらいかん、太夫もようにならないかん、三味線もね、人形遣いも、人形の頭も衣装も舞台も、有らゆる面が向こうへ秀出とらん限りには、お客さんは向いてくれんのよね、だからして、私やもう向こうと、ほのー二座ぐらいてつぱつてやったことも二、三回あるけどね、そうなたらね、もうなんですよ、衣装でも自分の持つてる衣装いいもんからいいもんから出していくんですよ、ええ、ほらもうそうなたら大体解るんですよ、向こうのメンバー、チラシ見たら書いたあんじやけんね、「あー向こうの本太夫が誰それじゃと、うちは誰それじゃけん、そうじゃな、これなら互角にいけるなというような、向こうはオイタキが誰それじゃけん、うちは誰それじゃけん、あーオイタキではうちがちよつと勝とんなど、ほた向こうの役者の立役の立役者が誰それじゃけん、うちは誰それじゃ

けん、むむ立役の立役者はうちが勝とうけんども、おやまの立役者は向こうがええな」と。こういうふうに比較してやるんよ、こんで具合が悪いと、誰それ一枚入れちゆうようなるんよ、ほつたら電報打つんよ、ほで役者一枚ポーンとええのを入れるんよ、そういうふうにしてぱつとやったもんじゃ、ほしたら結局こう昔の芝居だつたらあんた一日二日せんじゃけんね、最低五日じゃけんね、長いこといたら一週間じゃけんね、ほだあんたもういい方は序々に序々に序々に入りがふえていくのと、一方は序々に減っていくのと、こうなるんほらもう面白い事もあるわね、昔は、現在もうあんた、あの壺坂阿波鳴しか芝居ができんのやからね、お人形の五つも六つも出る芝居やなんかできんのやからね、最高あんたやったつて、城西にしろ、内町にしろ、壺坂とかね、阿波鳴とか、こんなもう二つか三つかね、出てくるぐらいいしかあの一

外題しかできんでしょ、そりやもうあんた、昔は一の谷たてたり、太閤記たてたり、馬七騎も出して鈴ヶ岳もやつたりね、まあ大江山やいうたらこんな大きなセントウエちりきでつんりやげて出してきたんじゃけん、ほらもうなんじゃね、スケールがちやうわね。

●そういうふうにか町で興行したりしたのは何年前くらいまでですか。

(近所の人)

深見氏、兎に角支那事変前じゃね、兎に角もう何や支那事変くらいから、こう下火になったんやね、何故私やほの終戦後最前も話したとおり、皆娯楽

ちゆうもんに飢とつたんじゃね、そいで私やがこうまあトップきつて人形やつてみようちゆうようになつて、ほんでもう役者駆集めてきて、太夫から三味線も入れて、やつたら案内請けたんよね、ほでうちも来てくれうちへも来てくれちゆうんで、伊予なんか私毎年もう三月三日のこれは旧ですけどね、三月三日初日にもう待つてくれよつたからね、伊予ジ周桑郡ニイグンね、愛媛県これは、ほらもう阿波源之丞よぶんじゃていうてね、もう必ず来年も来いよというてね、行つたつて儲けになれへんよね、贈与だおれで、え、(笑)ほなけんど終戦後私は、胴身にしゅんで弱つた困つた事があつてね、貨車が思うたように入らんでしょ、ほの汽車の貨車ですよな、兎に角今のように自動車はなしあんた、ほいでもうあんたもう芝居とつたらねもう役者も太夫も全部乗り込ましとんのに、荷物が出んのよ、ほで今日の昼からの興行のに荷

物がまだ鴨島におるんよ、ほれはね、愛媛県の西篠山というところ、山奥の奥に細野っていうところだったかな、細野でとつとつたんよ、ほなからして、えーと駅は小松駅でおりてね、小松駅降りてあんた、それからバスでずうーと山へ入らないかん、どなにしても荷物がいかんのよ、一週間も十日も前から鴨島駅へ出したんですよ、ほいでもういとるだろなと思っていたところが届いとらんじゃ、それまあ理由もあつてな、一日早ようになったんよ、向こうもね、十日からの初日が九日からになったのよね、新のね、ほなからしてうちはまだ一日あると、ほたまた電報が来て一日早うなつたという電報じゃ、ほでやれやれ云うたて入らんよ、ほで私その時の事を今だに思い出してもぞつとするけどね。もうあんたしょうないんよ、大きいでしよ人形座の荷物が、ほど小分けにしてね、駅でほで私キップをね、十何枚買ってね、小松駅までキッ

プを、皆手廻りにして積んだんですよ、それで小松へ着いたのが、私が先着いて荷物来とらんのよ、そいでしょうない駅で荷物聞き合わせてもろうたらね、ほた西條まで来とうというんよ、ほれ何時ぐらい来るというたら、もう三十分したら来ますと云うんよ、ほて荷物が着いたと、こんどは迎えがこんときたんよ、そしたらもう私も弱つてしもうて、行く先は解とん細野へね、トラックを廻すからと云う約束になつとうけん、こつちがトラック雇とうたらトラックが重複するでしょうが、それから弱つてしもうて、でももうこりやしかしバスが四時前のバスにもう乗らんとね、どうしても具合悪いと思うたもんじゃけん、ほたやつと迎えの人が来てくれて、ほてトラックに積んであんないたらもうあんた向こうへ着いたのが大かた夕方やわね、ほでから向この請元人が良かったからね、それから夜芝居してくれたんよ、そしてあんた、

それがもし、ほなもう今日はせん、明日やるといふ事になると、そのあくる日とつとう所ほうらないかんのよ、手金倍返してね、そんな際疾いことやつたん。終戦後相当あんた興行すんのに苦労したんです、ほの輸送関係で、えー。

●愛媛県なんかやはり盛んなんですかね。(近所の人)

深見氏、いや人形座もいいんがあるんですよ、今愛媛県だつてあんた学生に習わしてね、やんりよりますよ、伊予で一番ええのが伊予源之丞、これは伊予の愛媛県が保管しとるでしよ今現在。

●徳島から出て行った訳ですか。（近所の人）

深見氏、伊予も盛んだったんですけどね、まあ恐らく徳島の方から行ったんですけどね、結局はね、徳島県のはほうぼうにね、九州にも人形座があるんですよ二、三。それから鳥取にもあるし、いろいろほうぼうにあるのは何故かと云うとね、春に座たてていくでしょ、行って必ず儲かるとはきまらない昔のは、今なれば売込みちゆうんで、日だてなんぼで売つとうでしょ、損なんよ、ほなけんど昔はそうでない、ずうと巡業打つていきよつた時分には、ほらもう幕開たつて雨々々とくろうたてね、ほら損する時分がある、そういう時分に人形座置いてもどつてくるんよ、金ができんから、それで結局そでよう取りもどさんずくに置き置きした座が今県外に散在しとる訳よね。

ほだまあ愛媛県なんかいい役者があつたくらいやからね、ほら座も恐らくもう阿波につづいて愛媛でしような、讃岐にもあつたけどね、讃岐よりか伊予の方が盛んでした、そらね、人形芝居は、それで現在でも伊予には、あゝ立派な座が二つや三つあるですよ。

ほらもう淡路にも吉田伝次郎、市村六之丞ね、こんないいところよね、ああ吉田伝次郎なんかよろしいですよ、ほいで小林六太夫ていうていい座があつたのを徳島へ来てますわな今、どなつたのかしらんけどね、徳島の十郎兵衛邸ところに人形館があるでしょ、あしこへ入つとんが淡路の小林六太夫で。

●人形館は閉まっていますね。

深見氏、あれ私の知人がやりよったんよ、しかしまあ県がね、兎に角こないだ四、五日前にあいましてね、何故あれ閉めたんかと、聞いたんよ、そしたらまあしかしお客さんがおいででなくても、人形館に入ってくれるのは百人に一人というんよね、むこうも、そで開けといたらひきあわんというて、こりや私も見てもらいたいんだけど、現在贈与だおれになつてしまうと、ほでまあ、市の方も案外援助せんしね、個人ではやれんと云うてましたけどね。もう分散するんではないんですか、そんな様な気がします。一つも売つたらんとは云つとつたけどね、私らちつと売つたんではないんかいなというような気がしたね、惜しいと思つたね、やつぱり皆生活していかないかんでしょ、

やっぱり持ちおうしようということとはなかなかによね、よほど変り者かそれはもうね、何かでないと、このあんた人形座いまあんた一つの頭十万に買う、十五万に買う、云うてきよつたらあんたほんまになんぼ金に値うちがないというても十万、十五万というたらね、私や倉に百五十万あると思うたらあんなね、ほら売りたい気になるわね現在ほんま、けえんどそれはよほど好きでない、人形座というのは持ちおうせできんね、ほらあんたもう今年の夏あんなむしぼし、水引から暖簾から全部ひっぱってみたけどね、あんたは何間もいとんじゃけんね、長々とほせんのですよ、えー。

兎に角私に今「なる」と「むしろ」を借してくれたら今芝居できるんじゃけんね、そりやもう「なる」建ててあんた「むしろ」でかこうてね、骨組が仮常席ができたなら水引から暖簾から全部あるん、幕から全部、櫓太鼓まで全

部作れる。

●伊予とかあつちこつちへ巡業して行くちゆうのはよつぽど荷物がある訳です  
ね。(近所の人)

深見氏、ほらね面白いですよ行きよつたらね、若衆が寄つて小屋掛けるん  
よね、そしたらおうきよいやつ掛けとんよ、大けいなと思つて、そしたら、  
向こうから、「おっさんこれ水引とどくかといんよ」(笑)。そんな時分にもう  
幕がとどかなんだりね、水引がとどかなんだら格好悪いんよ(笑)、ほやけん  
もう大けいもん大けいもんといつてね、余るのはしよいけん、長いもん大け

いもんといって、ほであんた大概もう普通席だったら七間もあつたらいけるもんを十間も十二間もんのをこさえるんよね、そうせんともうほんま馬鹿いきにもう大けい小屋掛けてね、ほであんた舞台を七分ぐらいしか幕が届かなんだら格好悪いでせんかな、ほやけんね、ほらもういろいろ面白い事あるわね、巡業しよつたら。

●巡業というのは、日本全国へ行ったんですか、それとも関西方面主体ですか。  
(近所の人)

深見氏、いえいえ関西じゃね、私がもう大阪の産経ホールで昭和三十一年

にしたのがこれがうちやげですわ、これがもうなにやわね贈与もいったけど  
ね、もうここでやってもうまあおしめひいた訳よ、というのが、いい三味線  
もおらずね、その役者もおらずね、もうこれはあかんと、兎に角行つたらね、  
全部水引つたつてあんた上へあがつてつらないかんでしょ、あんた六十も  
七十にもなる人がぼつかり連れててね、そりやできんですわねそらね、もう  
これはいけんと、私ほんで昭和三十一年にもうこれ、これは興行するべきも  
んではないと、ぼつと思いつたんよ、それからもうこれは今に人形は無く  
なるぞと、それからほうぼう買いにいんりよつたん、売れというて来る人仰  
山あるですよ、そりや売れというてきますからね、けどまあ食べれんようになつ  
てもう一番最後じゃこれ売るのは、まあどうにかこうにか食べていつきよる  
うちはね、まあ田舎でね、米も三反余り作つとるし、まあこれ米屋もほそぼ

そやんりよるしね、していけばどうなりこうなり食べていけるからね、まあそやって人形も悠長に持つておれるんじゃけどね、これがなかなかあんな生活におわれたらね、まあ持つとる事できんけど、まだ私の娘があんた今小学三年になるん、これがすきでね、人形が、ほどもう買うてきたら喜ぶんじゃけど、買手が来たらすかんのよ、売るな売るな云うてね（笑）。ほじゃけんねもう私こりやまた後継ぎができたなと思ひよんよ、まあなんですわ、自分一代で滅びると思たらさむしいけどね、まあ後のもんが好きなということになつてきたら、まあ持つてくれるかいなと思たり、しかしなかなかね、衣装のあんな手入から、カツラの手入、ほらむつかしいですよ。

● やっぱり一年に一回ぐらいむしばしするんですか。(近所の人)

深見氏、ええやらないかんねん、一年に一回はせないかんねん、それがし  
かしできんのよね、忙しゆうて、一週間はかかるけんね、最低、ほしでした  
らね、きようはもう頭びつなら頭といくんよね、ほしたらそれが済んだら、  
頭びつでもあんたひっぱり出してぱつとほしてすぐにしまうんなら世話ない  
んよ、みんな櫛とおすけんね、ええ、カツラ全部櫛とおすんですよ、全部カ  
ツラほどいて、そしてもうちゃんともうくぐつてね、こえでしまうんよ。

●これいちいちほどこんですか。(近所の人)

深見氏、ええ全部ほどこいて櫛いれます。

●相当知識がないとむづかしいですね、この頭の元の格好とか、なに覚えとらな。(近所の人)

深見氏、いやそもそもこんなもう今しもうたつたからつぶれとうけどね、結いかえたら綺麗になりますね。これなんか、お染とかね、ほの白木屋のおこまとかね、いうようなん使うんよね、これ。

●ほんとにこの口はその辺にいそうな口ですな。

深見氏、うんこれ天狗久独特よね。ええ、兎に角天狗久という人は私も記憶にあるがね、こつちに考えとる事が解つたんでないんかと思うくらいね、うん、ほら偉大な人だったね、考えてみたら。

●何才位でなくなつたんですか。(近所の人)

深見氏、八十何才じゃないですか、人形も相当作つとうでしょうね、兎に角六十年余りやつたんでないですか人形を。

●大体どこの座でも五コから十ぐらいはありますね。

深見氏、兎に角天狗久の頭を見よつたら、他のを見られんね、ほらもう力がないわね、力が。兎に角まあこれなんか伊予松山の面子じゃけどね、これなんかようできとうですよ。これ私も百もこうある中からこれより出したんじやが、これじつと見よつたら話するんでないんかと、物言いそうなのでしょこれね、流石阿波の天狗久か伊予面子かと云うとっただけあると思うてね、ええ、しかし天狗久の物ははね、どれ見てもいい、そこが違うね。

●氣にいらんやつは出さんちゅう訳ですな。(近所の人)

深見氏、ぽんと割るんよ、氣にいらんだら、そのかわり天狗久は几帳面なんですよ、自分の銘全部入れとるからね、年号と年令とね、まん中へね、ほらもう流石ですわな。

●まあそんだけ自信もつとんじやわね。(近所の人)

深見氏、恐らくちつとこう天狗だつたんかもわからんね。天狗久や云うとこ(笑)、つけるところやね、私を持つとる人形の中にも裏に銘世界一やいれと

んがありますわ（笑）。ほらまあ世界一いや違くないと思うてね、しかしまあね、ほらたいしたもんです、こらー徳島県だけではないですよ、愛媛県へ入ったって、あの香川県へ入ったって、天狗久の頭や云うたらもうね、認めとるもんね、それは。

ええ今の三代目さんがな、三代目孫さんになるわな、この人がやはりほの余りおじいさんが偉大であったからね、ちよつとこう氣の毒なところあるわね、えー今の三代目さんもあの艶もんはいいね、娘とかね、ほの若い男かね、そんなもんはあのなんじゃねかわいいね、ほなけんど荒物がおじいさんだけいけんはね、ほらおじいさんはいいわね、三秀とか熊谷とかね、いうようなとこはすごいね。（終り）

あとがき

カワノアキラ  
河野 晃 昭和三十六年 徳島県立工業高等学校卒業後、東京都品川区の「家

具のデパートスナムラ」に就職するも、会社の近くで小中学校同級生 柏木君と村上君にバツタリ。両君は大学に行っていると。国学院と駒沢大学に。高校の上に大学が有ることを知る。翌年、学費の一番安い二松学舎大学文学部を選び入学する。昭和三十八年となる。

この本は昭和四十二年大学四年の卒業論文作成時、深見氏を訪ねて録音（テープレコーダー）し、方言そのままに書にする。

残念なことにこの本にすることが令和四年三月になり、深見氏が生存しているか心配の中お届けする。

この「徳島の人形芝居今昔」あとがきに記したが令和四年三月に本にして、お届けしたが、その後十一月に古い資料を探すと深見様に最初にたずねた時にちようど一座の道具や衣装を陰干していた時で説明を聞きながら写真を撮っていたのが出て来た。たくさんの人形の頭を一つ一つ手に取って説明してくれている深見様の顔すがたがあり、早速それらの写真を表紙から替えて再発行しました。写真の人物は阿波源之丞座元の深見利實氏である。









